1969年8月11日（第4日）ハンパクしんぶんしゃ　1部 10円

日刊ハンパク5

男と女の中のハンパク

たとえば、男の中の男小田実を呼ぼうとしたがきてくれなかったという司会者のなげきで男と女の討論会は、そのご会場内にさまざまな討論をまきおこした。そのこえを紹介する。

☆「ゲバルト部隊やバリケードの中にも男は男、女は女の領域として存在する。」

☆「活動家の結婚が依然としてかわいこちゃんにあったりするように男は女らしい女(?)を求める」

☆「山のぼりの極限状況で男女の区分はのりこえられてある。そこには登山家としての生命をはった共同の結びつきがあるだけだ。」

☆「その例は女性にそれ丈の実力があることを前提にしている。つまり女もという形での特別なケースだ。」

☆「天モ行進の中で私は女をかばうのに抵抗を感じない。女の革動隊員もいてあたり前だがそんなものはなく、革動隊に規制されれ女の子の悲鳴を聞いていかりを覚えるのも自分が男だからだろうか?」

☆「女らしさということが言われる時、僕は非常に反発を感じる。『らしさ』が言われる時、男と女の抽象化された概念が存在に先行しそいる、その時男一般は嫌悪と欲望をもって女をみる。」

☆「人間の解放は、男と女でつくられた世界の問題であるが『らしさ』がその足をひっぱり、女性差別問題をつくりだす」

☆「男と女しかない世界なのに男だけの解放は片輪の解放ではない」

☆「女が解放されないかぎり男女の解放はありえない」

☆「学生時代に一個の人間として反戦と自己のかかわり方をうねに向って斗ってきた女性も主婦となり子供をもったとき女のうめきとしてまさに斗いがあることを知る」

☆「男と女の差を単に性の違いでしかとらえていなかった女の活動家も結婚し、子供を生み育てなければならない時はじめて女性解放のスローガンをあげねばならない矛盾にぶつかる」

☆「男と女の問題は個としての男対女としてのみをとらえるのでなく、社会的な状況、つまり体制下における男と女としての関係に焦点があてられなければならない。このハンパクで私達が男と女の討論をするのは実は人間として体制と斗う男と女が一つの力としてその内ら側から個人の男、個人の女の限界を破り体制が規定する男対女のワクにいどむことにこそ意味がある。私達の中ではその時最も男らしい男と、最も女らしい女が一つの人間として同じ力をもち、体制をうちくだく同士としてあるのである。」

8月11日5時

同志一名 タイホさる

10日午后2時すぎ、キリスト者によって組織された有志デモ数百人が東宮から公園内フン水池で宣憲の挑発にあい一名がタイホ引致されるという事態が発生した。

急をききつけて会場からかけつけた警備隊をふくむ二千余は四百のポリ公と対峙圧倒的迫力で追い出した。

投稿　ハンナ迷子?続出。

今日までの連続造反で日中の諸君はその営利性を弾んど放棄しまだ大きな赤ハタが幅をきかしてるメー斗ム局は自らハンパクの把握を宣教導入でさらけ出し、全共闘諸君は参加を自己主張の場と混合していたことをバクロし、また面抜けな右翼が会場周りをうろうろしたりハンパクでグループとして最大動員力を誇る私服は出版物写真収集を余りに忠実に励んでいる為われらの逆追跡も忘れてしまっている。すべてこれらはハンパクの渦中にまき込まれた展示物となっている。人々よマネキン人形たちを見落すなかれ!

『らいの家』 昼と夜

1

ひときわ目立つバラックーらいの家。
一歩ずぐらい内部にはいると、壁一面べったりと張られた二三。。枚のハガキが、たちまちわれわれをりかこんでくる、全国のらい者たちそのものであるハガキが……。
わたしたちには生活がない生活のない人生にとっては幸も喜びもあったものではない。生きているから生きていると云うだけ……。
園名、全生園。出生地、空白。年令、五〇。
お名前 男。

2

入口で手渡される、板ギレに釘を打ちつけただけのロウソク。人々はそれをさしのべて一枚のハガキと向きあう。
照らし出されたハガキの明るさと
暗がりの中の顔——
そこには、一本のローソクを通して行き来する声のない対話がある。
強制的に狩り出され、死ぬのも生きるのも一緒だった。戦地だけが、肉親からも拒否された私を、ライから解放してくれた。
そのロウソクの炎の中にもう一つの顔が見えてくる。それはらい者とわれわれを結びつけの「らいの家」を守る人達の顔だ。
らいの家へ行こう！
八月20日からのらい祭
岡山、愛生園へ行こう！
連絡先 交流の家 TEL 奈良44・0776

プロローグ 沈黙

九日夜から10日朝まで、徹夜の朝鮮人問題討論会は、あるハプニングを発端として盛りあがった。
「同化政策の中で、私はどう生きてゆけばいいと、自称半チョッパリの青年が話した。それを受けて、日本の青年が安易に公式めいた事を話し始めた。フラリとあらわれた男が、日本人青年につかみかかった。「お前ら、解ったようなことを言いやがって」その男はたちまち殺気だった数人に囲まれ男のサングラスが吹きとんだ。
「俺達朝鮮人は同情なんて欲しくないし
「日本での身分の安定なんて、求めてない
人だぞ！」
この痛切な叫びの後、在日朝鮮人、華僑の青年たちが、セキを切ったように、抑圧されつくしてきた実状を述べだした。それに対して、今迄、教条的に、暗喩的に斗いの連帯をのべていた日本人は、沈黙してしまったのであった。

トピック

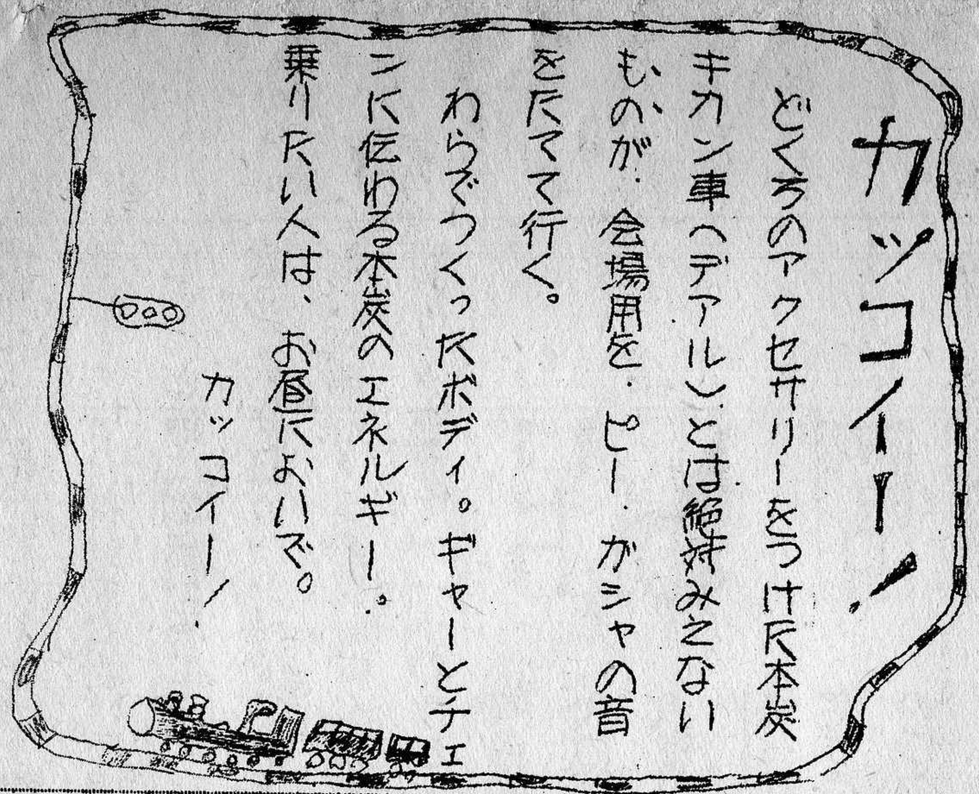
トピックトピックトピックトピックトピックトピックトピックトピック

市民と市民の対決

8月の日の市民大学での鶴見俊輔氏は
「私は講演を聞きに来たのだと、家から通ってきたヤツは市民だ。テントを張り、そこで生活している人間は土民だ。反博はいかにかかわるかという問題、つまり、両イデオロギーの民主々々の対決だ。土民が勝つのは当然だ」と。

カッコイー！

どくろのアクセサリーをつけた本炭キカン車（デアル）とは絶対みえないものが、会場用を、ピー、ガシャの音をたてて行く。
わらでつくったボディ。ギャーとナェンに伝わる本炭のエネルギー。
乗りたい人は、お昼においで。
カッコイー！



十日のプログラム

6・30より、8・11御堂筋10万人デモ—
大阪城公園→馬場町→御堂筋→ナンバー
御堂筋を反戦の広場に！全力でとりくもう！

大テントA
10時—11時30分「高校生討論会」
12時—11時30分 ハンパク市民大学「歴史と現実」 井上清、羽仁五郎、小田実

大テントB
12時—15時「大学問題討論会」安藤紀典、高橋武智

ハンパク劇場
12時30分—13時30分「一幕のペインティックプレー」
13時30分—15時30分「白雪姫」
15時30分—16時30分「戦場のピクニック」
16時30分—18時「反戦あるいは愛」

音楽ステージ
12時30分〜18時30分「解フォーク村」

その他
11時30分—12時30分 ハプニング（潮々会）
12時30分—13時30分 ぬいぐるみ劇（潮々会）
10時30分—18時まで デモ用プラカードの製作、その他

6時30分
8・11御堂筋10万人デモ
大阪城公園→馬場町→本町4→御堂筋→ナンバ
御堂筋を反戦の広場に！